花

に暮るる野辺 に酔ひし人々の つき なほごろ へ月に猶 心 せず ひとびと かんばん かめ めい あまれ夢の跡の 農 ナイルの々 の 枕蓋 あ 春は 夕ゆう ベ

褥とね

書からい時に露っ翠を花は春は読い雪を雨れのののの が、旋ぎ女の四 樹でがび、神な きは ふゆ けい れ ただよ まきば * 流が歳と 涼す ĩ しき夏のとりうたなっ とりうた は豊平 のおとず 恵ぱみ あり れ ひ 紅も ŋ

の洋に濤さわざの敗頽に神怒り

義を

0

国台

収る雄叫

ゃ

ぎを に 破※酔※

吾等立つべる暴虐無道幾

、き時ぞ今いま 年ぞ

幾 れ

末

濁

る

ħ

ず

を宇ゥ手でエ を宙ゥ稲ねル 枯が野の霞か 呼ょ々を 呼び沖天に翼搏たん なしき自然に 音く しせん 音楽 しき自然に 音く はないないです。 はないないです。 はないないです。 はねっ まれ ゼ 12 晴な れ 立た 吹ふ 0 雪ぶく うき 石に い夕陽淡くいりのである。 もか原が帰ったが、 狩り が始の森は鳴けば ŋ れ に

け惰な驕さ傾な栄なロ じ睡り奢り! 華が 1

よあ

る い懸か 風かせ ルげるうごがけて結びたる Aの緒一百を はいっぴゃく はいっぴゃく ない 瞬 に イの 瞬 に 三の象徴: |礎動きなし ア と仰ま が ヤ 0

...を

b

ぐ

宴た戦な天な自じ護ものののです。 ののので下か由りり 田の大旆正義の 剣ったいはいせいぎ っるぎ り伝へて極限無し 民な いを済ふべい いざ汲まん 小ある 3 ね 剣き 歴れ ど 更し

性なり

十三年の火はないのようともの表はない。 のは元。光は在まの後、半年の後、 移? ろ Ō

本 秀雄 Ŧi. 六 君 君 作 作 # 歌